

「原子力発電所見学会」を実施しました

経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け、原子力発電の必要性や安全性、立地地域の実状に対する認知向上や理解促進を図る「原子力発電所見学会」を全国で実施しております。年度内に十回実施することとしており、八月には九州電力(株)玄海原子力発電所、日本原子力発電(株)東海第二発電所、中部電力(株)浜岡原子力発電所、関西電力(株)大飯発電所の見学会を実施しました。それぞれ電力消費地である福岡市、千葉市、静岡市、大阪市などから教職員や高校生、自治体職員など計二一〇人に参加いただきました。



8月21日 九州電力(株)玄海原子力発電所・意見交換会風景



8月29日 関西電力(株)大飯発電所・訓練センター



8月27日 中部電力(株)浜岡原子力発電所・バス車中にて講義風景



11月17日 東北電力(株)女川原子力発電所・PR館

また、十一月には、東北電力(株)女川原子力発電所、日本原子力発電(株)東海第二発電所、東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所の見学会を実施し、それぞれ仙台市、東京都下、さいたま市などから計一一〇人に参加いただきました。当日は現地向かうバスの中で、「原子力発電のしくみ」や「世界のエネルギー情勢」などについて、専門家が講義を行い、まず参加者に基礎知識を習得していただきました。発電所では、構内をバスで一巡、PR館及び訓練設備等を見学した後、発電所の職員や地元自治体職員との意見交換会を実施しました。参加者からは「百聞は一見にしか



11月24日 東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所・サービスホール(PR館)



11月18日 日本原子力発電(株)東海第二発電所・東海テラパーク(PR館)

ず。現場の声を聞いたのがありがたかった。「原子力発電所はマイナスのイメージでメディアには取り上げられているが、実際に自分の目で確かめることができ良かった」といった声が聞かれました。

■お問い合わせ先
 (財)電源地域振興センター 普及啓発課
 電話：03・5405・8128
 e-mail: fukyuu@dengen.or.jp

「エネルギープラザ2007」を開催しました

平成十九年十一月一日(木)から二日(金)の二日間、東京都目黒区の「こまばエミナース」において経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け、「エネルギープラザ2007」を開催しました。

初日の開会式・基調講演・パネルディスカッションには約三七〇名が集い、はじめに主催者を代表して中野正志経済産業副大臣より、続いて来賓の河瀬一治全国原子力発電所所在市町村協議会会長・敦賀市長よりごあいさつをいただきました。

その後、法政大学現代福祉学部長



法政大学現代福祉学部長 岡崎昌之教授

の岡崎昌之教授が「電源地域における再生と協働」のしくみづくりと地域産業の再生に向けて」と題して基調講演を行いました。岡崎教授はまず、具体的な事例と数字をもとに「過疎に悩む日本列島」を示したうえで、

今までの地域づくりは基盤整備が中心であったことを指摘しました。そして、これからはハードにソフトをプラスして、ソフトで地域再生の課題を解決していくことが必要と、栃木県茂木町の事例を紹介しながら訴えました。

また住民と行政がどのように協働を実現していくかについて、地域の課題は住民側の知恵を取り入れないと解決

できない時代になっており、お互いの理解を深め、行政側の「知識」や「財」と住民側の「知恵」を集めて、持続的な政策を立案していくことが必要であると述べました。また、愛媛県内子町の事例を挙げて、地域そのものをブランド化して都市の個性と農村の個性が対等に交流していくことの必要性を訴えました。最後に、これからは自己実現の志向性が強い団塊ジュニアの世代が農山村地域に移住して、こうした外来型の定住者が従来型の地域の人々と地域づくりを行っていく時代になりつつあると結びました。

続いてパネルディスカッションでは、モデレーター岡崎教授をはじめ、高知県・松崎地域計画本舗の松崎了三氏、熊本県人吉市・ひまわり亭オーナーの本田節氏、岩手県遠野市・NPO法人「遠野山・里・暮らしネットワーク」副会長の菊池新一氏により活発な議論が行われました。

二日目は、地域振興事業検討会として、電源地域における今日的課題に対応した「体験交流事業検討会」「広域

観光検討会」「漁業振興検討会」「特産品開発検討会」「交流事業開発検討会」「循環型地域づくり検討会」の六検討会を実施しました。主に午前中は検討会講師の基調講演や事例発表が、午後はグループに分かれてワークショップが行われました。

今回のエネルギープラザでは、「地域振興へのモチベーションの向上」と「課題克服に向けた実践的手法の獲得」に目標が置かれましたが、各会場では講師からの事前質問をもとに、課題克服のノウハウについて活発な意見交換や情報交換が行われ、盛況のうちにその幕を閉じました。



特産品開発検討会

■お問い合わせ先
 (財)電源地域振興センター 普及啓発課
 電話：03・5405・8128
 e-mail: eneppla@dengen.or.jp

「エネルギー人形劇」を上演しました

経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け、エネルギー人形劇を上演しています。

この事業は、原子力発電施設等の新規立地・増設予定地域、プルサーマル計画の実施が見込まれる立地地域及び既設立地地域の次世代を担う子供達が、将来、エネルギー・原子力、環境問題等について適切な判断・行動ができるように、エネルギー・原子力、環境問題等への関心を喚起し、正しい知識の普及啓発と理解促進を目的とするもので、全国八カ所です計十六回上演することとしております。

十月には、青森県むつ市「消費生活展」、福井県高浜町「親子ふれあい広場」及び愛媛県伊方町「町民文化祭」にて上演し、合計四三二名の方にご覧いただきました。

十一月には、福島県大熊町「ふるさとまつり」、静岡県御前崎市「産業まつり」及び北海道泊村立泊小学校にて上演し、合計六五五名の方にご覧いただきました。



むつ市「消費生活展」にて、上演風景

■「エネルギー人形劇」のお問い合わせ先
（財）電源地域振興センター 普及啓発課
電話：03-5405-8128
e-mail: fukyuu@dengen.or.jp

「でんきのふるさと新潟げんきフェスタ in ぎはんミュージアム」を開催しました

東京電力㈱の委託を受け、十一月二十一日(水)～二十二日(木)、三十日(金)～十二月一日(土)の四日間、「でんきのふるさと新潟げんきフェスタ in ぎはんミュージアム」を開催しました。

平成十九年七月十六日に発生した新潟県中越沖地震で未曾有の打撃を受けた新潟県について、現在の震災復興に向けた元気な姿を「特産品・伝統文化・観光」を通じてお知らせするとともに、被災した柏崎刈羽原子力発電所の正確な情報発信を通じて地域の安全性をアピールし、「電気のふるさとである新潟」と



物産展ブースにて



ステージにて、新潟の名物女将による観光案内クイズ

「電気の消費地である首都圏」の交流をさらに深めていただくことを目的としたものです。
東京・有楽町の東京国際フォーラム内にある「ぎはんミュージアム」で実施し、新潟の酒をはじめとする物産展や最新の観光情報、新潟コシヒカリの「つかみどり大会」、新潟の家庭料理「のっぺ汁のふるまい」など盛りだくさんでした。また、ステージでは、新潟の食材を使った料理教室や、新潟の名物女将による観光案内クイズなどを行い、約一万五千人の来場者の方々に楽しんでいただきました。

Vol.8・9 読者の声から

●この地域も、自分たちの町の特色を生かそうと頑張っている様子が誌面から伝わってきました。何か一つにターゲットをしぼることが大切だと思いました。
(宮城県東松島市 女性)

●首都圏の電気をまかなっている地域の産品を紹介することは、意義のあることだと思います。
(福島県福島市 女性)

●本誌の記事は、力を合わせれば何でも出来るシリーズですね。小さな力も合わされば、大きな力になるんだと私にパワーを与えてくれました。

私にも何か出来るはず・・・。
(宮崎県延岡市 女性)

●福井県越前町では、これからの季節、カニや水仙の観光客でにぎわいます。越前ガニや甘エビ、カレイなどの新鮮な海産物が豊富で、また、運が良ければ「波の華」を見ることができ

ます。「波の華」とは、厳寒期海岸に打ち寄せる波が白い泡状になり、この泡が強風により舞い上がる様子が花びらが宙に舞っているように見えることからそう呼ばれています。
(福井県越前町 女性)

●私の住んでいる青森県黒石市では、今「焼きそば」を地域活性化につなげる

人事往来

●電源立地都道府県知事(平成19年8月～10月選挙分)

都道府県名	氏名	当選月日
埼玉	上田 清司	8月26日

●電源地域市町村首長(平成19年8月～10月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
甲佐町(熊本)	奥名 克美	8月19日
中富良野町(北海道)	四方 昌夫	8月21日
鮫川村(福島)	大樂 勝弘	8月21日
盛岡市(岩手)	谷藤 裕明	8月26日
天栄村(福島)	兼子 司	8月28日
女川町(宮城)	安住 宣孝	9月4日
大熊町(福島)	渡辺 利綱	9月4日
都農町(宮崎)	河野 正和	9月9日
関市(岐阜)	尾藤 義昭	9月16日
三島町(福島)	齋藤 茂樹	9月26日
岩内町(北海道)	上岡 雄司	9月30日
上関町(山口)	柏原 重海	9月30日
平内町(青森)	逢坂 雄一	10月17日
野辺地町(青森)	亀田 道隆	10月14日
廿日市市(広島)	眞野 勝弘	10月21日
中津市(大分)	新貝 正勝	10月14日
五木村(熊本)	和田 拓也	10月21日
袖ヶ浦市(千葉)	山口 清	10月28日



【読者プレゼント】

今号の特集「Pick Up」にご登場いただきました広島県安芸高田市のご厚意により、川根柚子振興協議会「柚子しずく(柚子ジュース)」「二八〇崎ッ六本入り」を五名様にプレゼントいたします。

とじ込みのアンケートハガキに本紙へのご意見、ご感想などをご記入の上、平成二十年一月二十日(消印有効)までにお送

【お知らせ】

「電気のふるさと」じまん市産品ネットショップは、九月末をもって残念ながら閉店となりました。今までのご愛顧ありがとうございました。

【編集後記】

特集の取材で安芸高田市を訪問した際、「エコミュージアム川根」に宿泊させていただきました。夕食は地元の主婦の方々が工夫を凝らした郷土料理。見事な鮎の塩焼きに感動！しました。都会の喧騒から離れ、豊かな山々を眺めるうちに自然と開放されていく心。「電気のふるさと」ならぬ「心のふるさと」がそこにはありました。(M)

